

土壌汚染対策で新事業開始

下水汚泥の炭化処理も

山陰地方の処理業者 三光 同社は、複数のプラントで構成する「江島染対策法でも特定有害物質に指定されている。

（鳥取県境港市、三輪工場」と、廃タイヤリサイクルの「昭和工場」、バイオマス資源を（同市）が建設している。また、昨年は子会社た下水汚泥炭化施設が完成し、操業を開始。敷地面積は1万1000平方メートルで、建屋面積が2000平方メートル。処理能力は1日当たり140トンドで、約10トンの燃料ができる。

また、「エコブ」のウエストバイオマス（同市）が建設している。また、昨年は子会社た下水汚泥炭化施設が完成し、操業を開始。敷地面積は1万1000平方メートルで、建屋面積が2000平方メートル。処理能力は1日当たり140トンドで、約10トンの燃料ができる。

また、「エコブ」のウエストバイオマス（同市）が建設している。また、昨年は子会社た下水汚泥炭化施設が完成し、操業を開始。敷地面積は1万1000平方メートルで、建屋面積が2000平方メートル。処理能力は1日当たり140トンドで、約10トンの燃料ができる。



三光の太陽光発電パネルを設置した社屋

同事業は、民間企業が汚泥炭化処理の設備を建設し、鳥取県と島根県を中心に複数の自治体から収集した下水汚泥等を乾燥・炭化させ、製鋼保温材やバイオマス燃料等としてリサイクルするもの。今後はシステムを販売して、国内他地域へ活用することも目指している。